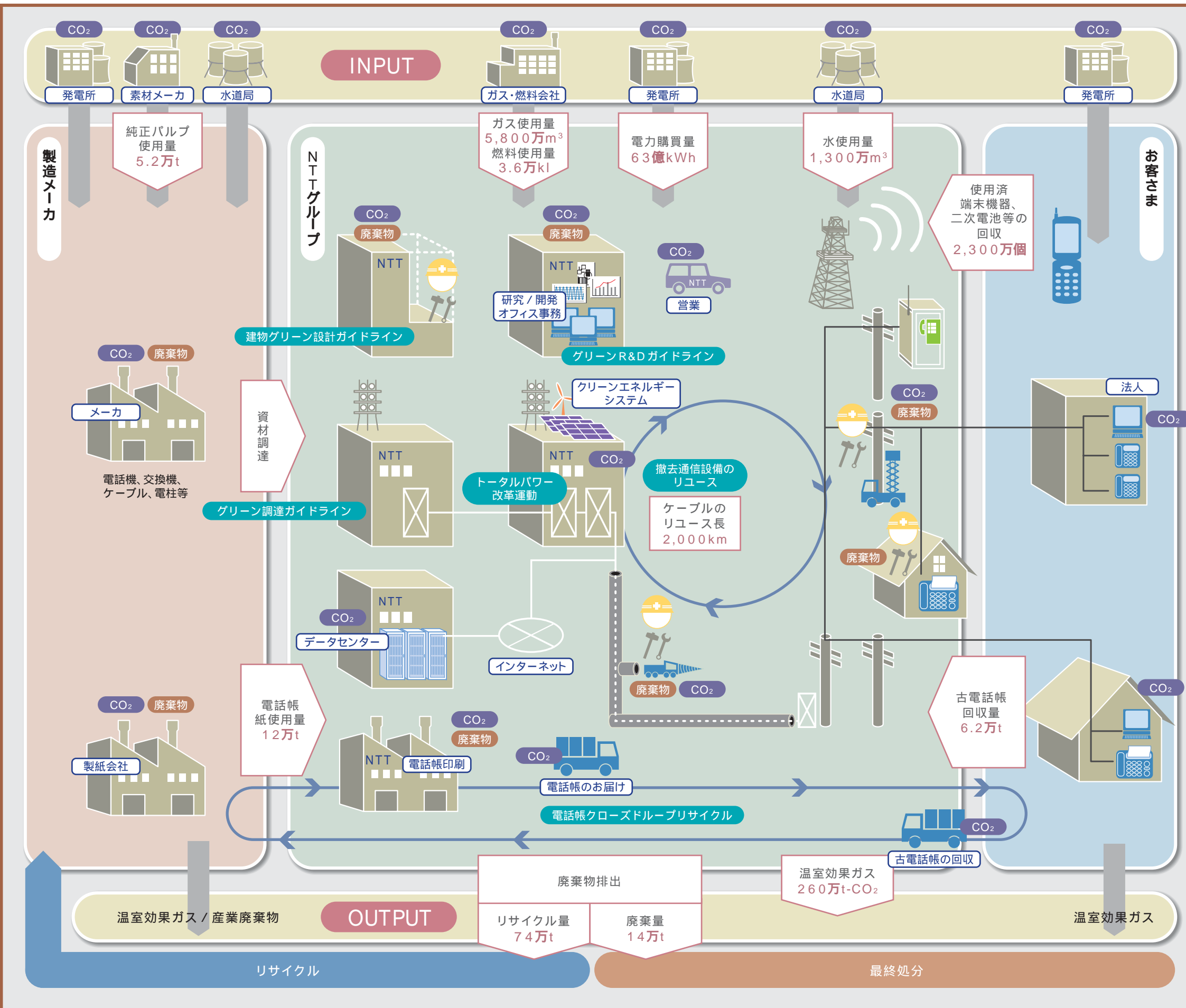


NTTグループのLCA的環境負荷



インプットからアウトプット、メーカーからユーザーという流れを追ってみた環境負荷マップ

循環型社会基本法では、企業は拡大製造者責任として事業活動の展開時だけでなく、サービスや製品に関するライフサイクル全体の環境負荷の低減も求められています。そのために、製造から廃棄段階まで、生涯にわたる環境負荷を定量的に評価するライフサイクルアセスメント(LCA)という手法が用いられ、その対策が講じられています。

LCA的に見ると、NTTグループは、「グローバル情報流通企業グループ」としてIT化を推し進めることによって豊かな社会、快適な社会をつくり、人々の繋がりを広げる一翼を担っていますが、事業規模が大きいくだけ、事業展開の過程で社会に与える環境負荷が大きいことも事実です。例えば、電力消費量で全国購入電力量の0.7%、廃棄物などの排出量は全国の産業廃棄物量の0.2%、紙資源消費量は全国の消費量の0.5%に相当する負荷を環境に与えています。

しかし、ITは流通や生産活動などを効率的に行い、エネルギーや資源の使用を抑制し、環境負荷を低減する側面を有していることも広く認められています。そうした事実を大切に、NTTグループは、IT社会の実現に貢献します。

今後は各種通信サービスへLCAの対象を拡大し、通信サービスの及ぼす社会全体への環境影響の把握に努め、環境負荷低減に向けた取組みを推進していきます。

市内電話サービスの環境影響評価

LCAの第一弾として、市内電話サービスの環境影響について調査してみました。

NTT生活環境研究所/NTT東日本では、市内電話サービスの環境負荷を評価しています。評価モデルは首都圏郊外の平均的な1万加入分の設備構成(端末機器、線路系設備、構造物、交換機類)を想定し、各物品の構築(製造および敷設)、運用、処分(撤去、廃棄、リサイクル)の各段階の環境負荷を評価した結果、現在のところ、構築、運用、処分のうち、運用段階のCO₂排出割合が全体の7割環境負荷は、端末機器、構造物、交換機類、線路系設備の順に大きいということがわかりました。以上のことから、市内電話サービスの環境負荷を低減するためには、端末機器の運用段階の負荷を低減することが効果的であることが検証されました。

